

自己評価報告書

平成23年 3月 28日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730098

研究課題名 (和文) ラテンアメリカにおける貧困削減政策と民主主義：メキシコ・チリ・ブラジルの比較分析

研究課題名 (英文) Poverty Alleviation and Democracy in Latin America: A Comparative Analysis of Mexico, Chile, and Brazil

研究代表者 高橋 百合子 (TAKAHASHI YURIKO)

神戸大学大学院・国際協力研究科・准教授

研究者番号：30432553

研究分野：比較政治学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：政治学、ラテンアメリカ、民主主義、貧困削減、社会政策、説明責任、市民社会

1. 研究計画の概要

(1) 本研究の目的は、公的資金の私的目的への流用などの政治腐敗が頻繁に見られるラテンアメリカ諸国において、貧困削減政策の財源が政治的支持動員の道具として利用されることを防ぐための制度改革がどのように進展してきたのか、その政治過程を分析することである。

(2) 同諸国では、社会支出がポピュリズムやクライアンテリズムに利用される事例が頻繁に見られ、貧困削減という本来の目的が妨げられてきた。しかし、過去20年間に進展した民主化の過程で市民社会が成熟してくると、様々な市民団体は、抗議行動や監視活動を通じて政府の不透明な財源利用に対する統制を強めてゆき、メキシコにおける「社会開発法」の制定等、貧困削減政策における政府の説明責任を強化する制度構築の推進力となった。こうした市民社会の圧力を背景として、メキシコ等の国々では政治的操作の度合いが弱まり、貧困削減政策の民主的統治の成功例として、国内外で高い評価を受けることになった。しかし、この重要な政治変化をもたらした要因およびメカニズムについての体系的な研究は行われていない。

(3) 本研究では、貧困削減政策の非政治化を導く因果関係のメカニズムを解明するために、市民社会アクターが政府の活動に対して説明責任を求めることを指す、「社会的説明責任 (Societal Accountability)」という概念に着目する。メキシコ、チリ、ブラジルの事例の比較分析を行うことによって、「社会的説明責任」と貧困削減政策の非政治化との間に因果関係が存在するかどうか、検証することを旨とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 2008年度は、メキシコに関する調査を行った結果、「社会的説明責任」を求める運動と貧困削減政策 (Progreso-Oportunidades 政策) の非政治化の間には明確な因果関係が認められることが理解された。

①まず、1994年、2000年、2006年の大統領選挙年に着目し、それぞれの年における貧困削減政策財源の、市レベルでの配分パターンを統計的に分析した。その結果、同政策の財源が選挙目的に利用される度合いは時系列的に減少したことが明らかになった。

②メキシコにおいて現地調査 (聞き取りおよび資料収集) を行った結果、選挙前に、野党議員やNGOは、社会開発省に対して、財源の透明な運用を求める圧力を強めたことが明らかになった。こうした要求を受け、同省は、貧困削減政策に対する外部評価システムの強化等、財源の配分段階での政治的介入を防ぐために様々な方策を講じるに至った。

(2) 2009年度は、ブラジルの事例 (Bolsa Familia 政策) に関する同様の調査を行った。

①ブラジルの貧困削減政策の受益者数は2006年大統領選挙前に大幅に増加した。先行研究サーベイおよびブラジルの研究者との意見交換の結果、これは、貧困層の政治的動員を目的とした政治的操作である可能性も否定はできないが、貧困削減という急務への対応である、との見方がより適切であることが示唆された。

②ブラジルの研究者、NGO関係者、連邦議会議員への聞き取り調査の結果、貧困削減政策の財源配分および政策運営の監視を目的とした市民参加システムは形骸化しているため、効果的な監視のために「社会的説明責任」メカニズムの強化が重要課題として認識さ

れていることが分かった。

(3) 2010年度は、チリの事例 (Chile-Solidario 政策) について調査を行った。

①同国では、貧困削減政策の政治的利用が問題とされていないことが分かった。

②これは、チリ政府の説明責任および透明性が高いことを意味し、ひいては市民社会アクターが政府を監視する動機が弱いことが明らかになった。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

当初の計画では、当該研究の初めの3年間 (2008-2010年度) で各国の調査を行った後、最終年度の4年目 (2011年度) に各国の事例調査から得られた結果を比較考察し、統合的な成果を出版物にまとめる予定であった。しかし、3年目 (2010年度) の研究終了時には比較考察がある程度進展し、すでに研究成果の英語での出版 (単著) を目指して作業を進めるに至った。したがって、本研究は、当初の計画以上に進展していると判断するのが妥当である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 本研究でメキシコ、ブラジル、チリの事例を比較分析した結果、①「社会的説明責任」メカニズムの強化は貧困削減政策の非政治化の重要な要因であること、および②チリの事例が示すように、「水平的説明責任」メカニズム等が十分に機能する場合には、市民社会アクターの政府に対する監視活動が弱くても、貧困削減政策の非政治化が起こりうるということが明らかになった。この研究成果は、異なる説明責任メカニズム間の相互作用と貧困削減政策の非政治化との関係について、さらに研究を深める必要性を示唆する。この未解決の問題について、他事例へも適用可能な一般理論の構築を目指すことが、今後の研究課題として認識された。

(2) また、同研究課題が他の地域にも適用可能かどうかを探求することは、多くの国にとって重要な問題であるにも関わらず、これまで体系的な比較研究は行われてこなかった。こうした問題意識に立脚し、政治学における理論・実証面での貢献を目指し、説明責任メカニズムに関する地域横断的な国際比較を行う共同研究を、最終年度前年度応募課題 (2011年度基盤研究 (B)) として現在応募中である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① Yuriko Takahashi, “Poverty, Inequality, and Clientelism in Latin America: The Case of Mexico,” 京都大学地域研究統合情報センター・ディスカッション・ペーパー・シリーズ、査読無、第16巻、pp.31-50, 2010.

② Yuriko Takahashi, “La Economía Política del Alivio de la Pobreza,” *México y la Cuenca del Pacífico*, 査読有, vol. 11 no. 31, pp. 59-94, 2008.

[学会発表] (計5件)

① Yuriko Takahashi, “Democracy, Accountability, and Poverty Alleviation in Mexico: Advances and Challenges of the Conditional Cash Transfers,” 国際シンポジウム「ポストネオリベラル期ラテンアメリカにおける国家社会関係—紛争、格差と民主主義」、京都大学 (京都市)、2011年3月20日.

② Yuriko Takahashi, “Democracy, Accountability, and Poverty Alleviation in Mexico: Self-Restraining Reform and the Depoliticization of Social Spending,” the 2010 Annual Meeting of the Midwest Political Science Association, Chicago, IL, April 22-25, 2010.

③ 高橋百合子「民主化過程における制度改革に関する一考察：メキシコのアカウンタビリティ制度改革」2009年度日本政治学会研究大会、日本大学 (東京都)、2009年10月11日.

④ Yuriko Takahashi, “The Politics of Social Spending and Self-Restraining Reform in Mexico,” the 2009 Annual Meeting of the Latin American Studies Association, Rio de Janeiro, Brazil, June 11-14, 2009.

⑤ Yuriko Takahashi, “Does Democracy Dampen Clientelism? The Politics of Social Spending and Oversight in Mexico,” the 2009 Annual Meeting of the Midwest Political Science Association, Chicago, IL, April 2-5, 2009.